

平成27年度  
教育に関する事務の管理及び執行状況  
の点検及び評価報告書

平成29年3月  
湯沢町教育委員会

## 教育事務、事業の点検・評価

平成 27 年 11 月に認定こども園棟が完成し、12 月 5 日に町制施行 60 周年記念式典と兼ねて認定こども園竣工式祝賀会を行い、平成 24 年から着工した湯沢学園建設工事が完了しました。

12 月より、子育て支援課が認定こども園棟に移転し、湯沢町子育て支援センターの運営を開始するとともに、認定こども園開園の準備を進めました。

平成 28 年 4 月には湯沢認定こども園が開園し、全国でも稀な保小中を通した一貫教育がスタートすることになります。義務教育学校への移行も検討しながら、保小中の連続性のある教育体制の構築を図ってまいります。

平成 27 年度における教育委員会所管決算額は人件費を除き児童福祉費 244,209 千円、教育費が 1,705,056 千円となり町決算額に占める割合は 23.74%となりました。

児童福祉費の内訳としては子育て総合支援費に 5,803 千円、児童クラブ費に 4,741 千円、各保育園の運営費として 93,993 千円、平成 27 年度より税務町民部へ事務が移管された児童手当費 93,638 千円、子育て世帯臨時特例給付金給付に 7,958 千円などとなっています。

教育委員会費では、文教施設整備にかかる決算額は 1,364,531 千円であり、教育そのものにかかる部分は 340,525 千円と昨年とほぼ同様な額となっています。

内容としては学校関係では奨学金等就学奨励費 24,462 千円、小学校・中学校運営のための費用 123,251 千円となっています。社会教育関係は 85,140 千円となっており、内容は公民館費 29,089 千円、うち全国童画展開催費用 5,381 千円、雪国館の指定管理料として湯沢町観光協会へ 9,000 千円、湯沢町総合型地域スポーツクラブ「ユースポ」へ町の体育事業を 11,818 千円で補助しています。

### 1 教育委員会

#### (1) 教育委員

教育委員会の構成は委員長、委員長職務代理者、委員 3 名（うち教育長 1 名）で構成されています。

教育委員会は定例会を毎月 1 回開催し教育委員会の主な事業について審議しています。

教育委員会の活動は各案件の審議だけでなく入学式、卒業式、文化・スポーツなど各種行事にも積極的に参加しております。

#### (2) 教育委員会事務局

教育委員会事務局では、教育課は学校教育係、生涯学習係、子育て支援課は子育て支援係、ワールドカップ推進室は総務係と2課1室4係となっており、それぞれ独自施策や統合に伴う課題を進めております。

#### ア 教育課 学校教育係

教育課学校教育係は、主に小中学校に関する運営及び学園建設や施設の維持管理等に関する事務を行っております。部長が課長を兼務し、係長1名、主任1名、主事1名、校務員は嘱託員を含む3名で構成されています。

#### イ 教育課 生涯学習係

生涯学習係は、公民館活動や生涯学習の推進、スポーツ振興等の事務を行っており、参事兼係長1名、主事2名、嘱託員1名で構成されています。

#### ウ 子育て支援課

子育て支援課は、保育園、児童クラブ等の事務を行っており、町長部局から事務委任されています。また、平成27年度からは、これまで複数の部署にまたがっていた子育て支援関連業務を集約するために、子育て支援課に管理指導主事と保健師を配置し、子育て支援全般に総合的に対応する体制を構築しました。

課の構成は、課長1名、係長1名、管理指導主事（嘱託）1名、保健師1名、社会教育指導員（嘱託）1名、保育士23名、調理員4名で構成されています。

#### エ ワールドカップ推進室

ワールドカップ推進室は、平成28年2月開催のFISアルペンスキーワールドカップの事務局として設置され、室長1名、係長1名、事務局長（嘱託）1名、嘱託員1名で構成されております。

## 2 各課・係の点検

### (1) 教育課 学校教育係関連

#### ア 湯沢学園（小中一貫教育）

湯沢学園が開校して2年目を迎えました。年度当初から新校舎で学校生活を送り始めた子ども達は、元気に新学年のスタートすることができました。

一貫校への取り組みとして、継続して「湯沢っ子絆活動」や三俣祭りに3年生が学園として参加するなど地域に開かれた学校としても活動しています。

湯沢学園は町民一丸となって子ども達を育むことを目標にしていることから学園ボランティアの活用や学園祭と同日開催した町民参加型の「第3回教育フェスティバル」により広く町民の皆さまに湯沢学園の教育目標等の浸透を図っています。

#### イ コミュニティスクールの導入

湯沢学園開校に併せコミュニティスクールの制度を取り入れました。コミュニティスクールには学校運営協議会が設置され湯沢学園の運営方針の承認をする他、

地域に開かれた学園にするため様々な協議を行います。平成 27 年度は、学校運営協議会の主旨や内容についての周知と「あいさつ運動」の推進に取り組みました。また、教育フェスティバルの第 1 部では、学校運営協議会主催で文部科学省認定コミュニティスクールマイスターの大山賢一先生に講演いただきました。学校運営協議会と学園ボランティアが両輪の輪となり地域に開かれた湯沢学園を目指します。

#### ウ 湯沢学園建設

平成 26 年度に、校舎棟、交流アリーナ棟、第 2 体育館棟までの渡り廊下が完成しすべての小中学校施設の使用ができるようになりました。平成 27 年 11 月に認定こども園棟、防災倉庫等、外構工事が完成しました。12 月 5 日には、町制施行 60 周年記念式典に併せ、認定こども園竣工式・祝賀会を行いました。

#### エ 学力・学習状況

全国学力状況調査等の結果では良い学年もある反面、課題がある学年もありばらつきが見られています。

学校生活において「自己肯定感」が低いことも学力向上の課題となってきましたが、平成 27 年度は 9 年生で改善が見られ、今後も小中一貫教育を通して改善を図っていくことができると考えています。

#### オ 体力の状況

体力的には概ね良好な結果が得られていますが、幼少時代からの戸外遊びの減少なども要因により昭和 60 年頃の数値より劣っているため、スクールバス登校の影響も注視しながら学園生活を通し改善を図っていきます。

#### カ 特別支援教育

小中学校における特別支援が必要な対象児童生徒が増加しております。そのため、知的障がい 2 学級、自閉症・情緒障がい 1 学級の特別支援学級を設置するほか、通級指導教室も設置するなど、制度的な整備をしてきております。また、平成 27 年 12 月には、総合子育て支援センターを設置し保小中一貫した支援体制を作り充実を図ってきました。

#### キ いじめ・不登校状況

小学校で 1 件、中学校でも 1 件が報告されましたが、個別指導や学年集会などで指導し、収束に向かいました。

なお、「湯沢町いじめ防止基本方針」を策定して関係者とともに取り組んでいます。不登校（病気を除く 30 日以上欠席）については、小学校で 3 件発生し、中学校では発生がありませんでした。小学校の 3 件のうち、1 件は平成 27 年度中に登校できるようになりましたが、2 件は指導を継続しました。

#### ク マグナ国際交流事業

平成 27 年度より、国際交流事業のうち総務部から移管された姉妹都市生徒受入事業では、生徒 10 名、引率 3 名、計 13 名が 7 月 3 日から 13 日まで湯沢を訪れ、

湯沢学園生徒派遣事業では、8年生10名、引率2名、計12名が8月5日から18日まで米国ユタ州マグナにてホームステイ、文化交流等の貴重な体験をしてまいりました。

## (2) 教育課 生涯学習係関連

### ア 公民館事業

湯沢町成人式は式典の後、新成人の実行委員会によりプログラムを作り開催しています。これからの湯沢町を担う新成人が集まるこの機会を捉えてUターン等の施策が取れればと考えています。

また、講座やサークル等で作った作品や踊り等を披露する場として湯沢町総合文化祭・芸能発表会を継続して実施しています。成果の発表の場は生涯学習のステージとしては必要であり意欲向上に繋がるため今後も継続していきます。

### イ 公民館講座

公民館講座は趣味・学習・生活を柱にした講座を実施しています。趣味の講座は自主講座とし講師と生徒が共同で作るものとしています。また、学習講座では「湯沢の里山魅力探し講座」等にマンションに居住の方を含め多くの方が参加しています。今後も多くの方が参加できるような講座を開設したいと考えています。

### ウ 図書室の運営

公民館に設置している図書室には、およそ19,000冊蔵書されています。今後もベルシステムにより町民が興味ある本を提供します。また、台帳管理や貸し出しの利便性を図るために平成26年9月より貸し出しシステムを導入しました。

さらに学園図書室にも同システムを導入し、本購入の利便性を図り、貸し出しを容易にした他、土日祝日等の一般開放を実施しました。

### エ 地区館事業

学校統合により地域の核だった学校が無くなったことから各地区館活動を推進し地域のコミュニティ活動の活性化を図っています。このコミュニティ活動の活性化により災害時にも自主防災として大きな効果があるものと考えています。

### オ 全国童画展

全国童画展は20回を迎えました。20回を記念し、新潟日報メディアシップ、新潟ふるさと村、湯沢町公民館の3会場において県内受賞者作品の展示など記念展を開催しました。湯沢町公民館会場では県立近代美術館の巡回ミュージアムを誘致し、著名な美術品との同時展示を行いました。今後とも童画の普及に努めていくこととしています。

### カ 文化財保護

雪国館は指定管理者制度を導入し湯沢町観光協会が運営しております。文化の薫り高い町として観光と歴史を融合させ各種イベントを実施し誘客し、入り込み

の拡大を図っています。

南魚沼地域の美術館・博物館のみなさんと南魚沼・湯沢ミュージアム連絡協議会を組織し各ミュージアムを回る企画商品作り全体での知名度と誘客の促進を図っています。

#### キ スポーツ振興

スポーツ振興では、総合型地域スポーツクラブ「ユースポ」に町のスポーツ関係を委託し実施しています。ユースポの頑張りもあり非常に多彩な運動・健康づくりメニューが構築されていることから今後も連携強化を図り支援をしていきます。

### (3) 子育て支援課関連

#### ア 保育園運営

保育園は湯沢学園内に認定子ども園として町内の町立保育園を統合することとしています。

入園児数はここ数年の出生数の減少により対象園児の数は減少していますが、核家族化に伴う共働き世帯の増加により、未満児の入園率が増加しているため、入園児数は微減に留まっています。未満児では、0歳児の場合は園児3人に対して保育士を1人、1～2歳児は6人に1人と定められているため、未満児の増加により対応する保育士の数も増える傾向にあります。

#### イ 放課後児童クラブ

核家族化に伴う共働き世帯の増加により、放課後児童クラブの利用者も増加傾向にあります。登録者は平成26年度32名でしたが平成27年度は34名となっています。平成28年度の利用申請は40名を超える見込みです。

平成27年度は前年度に引き続いて11月末までは、学園内の地域交流センターを仮のスペースとして運営してきましたが、12月からは新たに完成した認定こども園棟の専用施設での運営が開始されました。また、対象学年をこれまでの3年生から6年生に拡充しています。

さらに、平成28年度からは、運営を指定管理者制度に移行し、同時に預かり時間の拡充（最大19時まで）や、長期休暇のみの預かりに対応するなど、サービスを大幅に拡充する予定です。

また、昨年の評価報告書に記載がある利用承諾の判定基準の明確化という課題も、条例及び施行規則に基準を明確に示すことで対応を図りました。

#### ウ 子ども子育て新制度

平成27年4月から子ども子育て新制度がスタートし、保育サービスの利用者は、入園申請を行う前段に、保育の必要度や年齢に応じた「支給認定」を取得するこ

とが必要となりました。しかし、湯沢町には町立の保育所しかないため、支給認定の申請と入園の申請を兼ねる書式とすることで、利用者に大きな手間を取らせない工夫をしたことから、制度変更による大きな混乱はありませんでした。

ただ、国県の補助金申請や住所地以外で保育を受ける「広域入所」の事務手続き、あるいは、保育料の算定方法などが新制度によって大幅に変わったことで、子育て支援課での事務処理はその対応に膨大な時間を費やすこととなりました。

#### エ 認定こども園の開園準備

平成 27 年度は認定こども園棟の開園にむけ、前年度に検討を行ったこども園の機能や、拡充する子育て支援サービスの内容に基づいて、保護者説明会、例規の整備、備品調達、送迎体制の構築など様々な準備を行いました。

#### オ 総合子育て支援センターの開設

11 月末に完成した湯沢学園認定こども園棟には子育て広場、一時保育室、相談室などが設けられました。12 月には子育て支援課が役場本庁舎から移転し、総合子育て支援センター（愛称：JumPla.net（ジャンプラネット））を開設しました。子育て支援関連業務をここに集約し、平成 28 年 4 月に開園するこども園とも連携しながら、よりきめ細かな子育て支援を行う体制が整備されました。

#### カ 家庭教育

家庭教育はこれまで生涯学習係が担当していましたが、子育て支援施策の一つであることから、平成 27 年度から子育て支援課に担当を移しました。担当の保育士と保健師が、保健センターで実施される検診などの会場に出向き、家庭での子どもとの関わりを指導するなど、以前にも増してよりきめ細かな家庭教育を実施しています。

#### キ 青少年健全育成

青少年健全育成事業は、これまで生涯学習係が担当していましたが、子育て支援施策の一つであることから、平成 27 年度から子育て支援課に担当を移しました。事務局は、前年度から学園内の地域交流センターにあります。

青少年育成指導員を中心に行っていた「あいさつ運動」や学園の取り組みもあり、児童生徒に「あいさつ」が定着しつつあります。今後も湯沢学園に事務局がある利点を活かして、子どもたちが健全に育つ環境づくりを進めます。

### (4) ワールドカップ関連

#### ア アルペンワールドカップの開催

平成 28 年 2 月 12 日、13 日の 2 日間、苗場スキー場にて FIS アルペンスキーワールドカップ 2016 湯沢苗場大会が開催されました。両日とも観客は 5 千人を超え、

世界の一流選手の滑りを間近で観戦することができ、多くの方に感動を与えました。  
湯沢学園の児童生徒も観戦やアトラクションへの参加を通じ、スキーの持つ素晴らしさを肌で感じたものと思います。